

『令和3年度黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略主要事業・関連事業のまとめ』

政策分野1 田園観光産業都市黒石市におけるしごとづくり

政策分野1では、令和3年度に29事業を実施し、A評価が16事業、B評価が13事業となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となった事業は、りんご小売店トップセールス事業及び都市と農村の交流事業の2事業でした。

農業の面では、農用地の利用集積による農業生産基盤の強化を図りながら、意欲と能力のある若手就農者や女性農業者の育成確保のほか、寿司専米「ムツニシキ」や「牡丹そば」をはじめとする農産物のブランド化、高値取引が期待されるシャインマスカットや希少品種の黄美香メロンの栽培を促進するとともに、県と連携しながら農産物の輸出に取り組みました。また、6次産業化・農商工連携を推進し、地元の農産物を使用した加工品の開発・販売など、新たな食ビジネス創出への取り組みを支援しながら「食」をはじめとした新たな産業基盤づくりに努めました。

具体的には、農業次世代人材投資事業により、独立して農業を開始して間もない50歳未満の就農者に対し支援を行うとともにサポート体制を充実させ、就農意欲の喚起と定着化に取り組みました。また、次世代を担う女性農業者が女性ならではの視点・発想を生かした地域活性化策について検討するための助言・指導を行いました。農地中間管理事業による農地の累計集積面積は、270haの目標面積に対し、実績が310.48haとなり目標を達成しました。また、黒石産の高品質な農産物や加工品の輸出に向けた取組を強化し、地域経済の活性化を図るため「黒石市農産物等輸出促進協議会」を設置するとともに、海外におけるビジネスモデルを構築するため、香港においてムツニシキ包装米飯と牡丹そば半生冷凍麺のテストマーケティングを実施し、課題等を整理しました。

商工業の面では、黒石ICロジスティクスクロッシングを中心とした企業誘致の推進に努めるとともに、創業・起業セミナーの開催、空き店舗を利用した出店者への補助金支出、中小企業者への資金繰り支援や設備投資支援による労働生産性の向上に努めました。

具体的には、黒石ICロジスティクスクロッシング推進事業において、インターチェンジ連結道路からロジスティクスエリアへの乗入れや、ロジスティクスエリア拡大等の可能性調査を実施しました。今後は、インターチェンジ連結道路からのロジスティクスエリアへの乗入れについてエリア進出済み企業等の意見を収集しながら実現に向けた検討を行います。また、創業や起業を目指す方への支援として県と連携した創業・起業セミナーの開催、中心市街地の空き店舗に出店する事業者への家賃・店舗改修費の補助、企業経営の安定化を図るための事業資金保証を市内金融機関と連携して行っているほか、先端設備等導入計画を策定した意欲ある中小企業者等を対象に、税制支援や金融支援を行い設備投資による労働生産性の向上に対する取り組みを後押ししました。

就業支援の面では、採用や人材育成に意欲のある地元企業を支援し、地元就職を希望する学生やUIJターン希望者とのマッチングを図るための仕組みを構築し、「人財」の確保と地域産業力の強化に努めました。

具体的には、高校生の企業見学会や求職者を対象とした企業説明会、小学生を対象としたキッズハローワーク等の事業を行い、市内企業がアピールできる場を創出しました。また、若者世代や市外の移住対象者をターゲットに企業ガイドを黒石市ホームページ上に掲載し、チラシ等を配布して周知を図ることで企業のPRに努めました。

『令和3年度黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略主要事業・関連事業のまとめ』

政策分野2 田園観光産業都市黒石市への新たなひとの流れづくり

政策分野2では、令和3年度に26事業を実施し、A評価が21事業、B評価が5事業となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となった事業は、黒石よされ事業、黒石ねぶた祭事業、農業・農村体験事業「ワーホリ黒石」及びインバウンド観光推進事業（クルーズ船観光客誘客）の4事業でした。

観光の面では、広域連携による観光地域づくりを進めるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響によりインバウンド観光の停滞が余儀なくされている中、外国人目線での情報発信など収束後を見据えた態勢づくりに努めました。また、まち歩き満足度の向上を図り、観光客の滞在時間を延ばすための環境整備を実施しました。

具体的には、広域観光推進事業において、中南津軽及び西北津軽地域14市町村の連携による「一般社団法人Clan PEONY 津軽」が地域連携DMOに正式登録され、ツアー造成及びモニターツアーの実施、体験型商品予約販売システムの構築など域内の事業者との連携、新規旅行商品・特産品の開発及びプロモーションの実施など販売に繋げる取組を実施しました。また、インバウンド観光推進事業において、オーストラリアに向けた情報発信や、観光関連事業者への受入環境支援に取り組みました。まち歩き観光推進事業では、中町こみせ通りの観光客の利便性を図るため、津軽こみせ駅屋外へWi-Fi環境を整備しました。

古い町並みを大切に、来訪者が癒される空間の創出に努めるため、観光・まち歩きの拠点となる「松の湯交流館」を有する中町こみせ通りにおいて、回遊性及び景観の向上に取り組むとともに、国指定重要文化財の「高橋家住宅」や昔ながらの造り酒屋などを含む伝統的建造物の維持継続を図りました。

具体的には、歴史的景観形成事業において、街なみ環境整備事業地区を対象とした「こみせ」や建築物等の修景に係る経費の助成を行い、歴史的街なみを守り育みながら魅力ある景観の形成を図りました。また、中町伝統的建造物群保存地区の保存計画及び防災計画に基づき保存修理事業を実施し、伝統的な「こみせ」のある町並みの保存及び災害に対応できるまちづくりを進めました。

移住促進の面では、首都圏等の方々を本市に還流させ、市外に向けて本市の魅力の情報発信するとともに、本市を訪れる方々と市民が交流できるような仕組みづくりをするために、国・県の取組と連携しました。

具体的には、移住支援事業において、市内における移住・定住の促進及び中小企業等における人材不足解消のため、東京圏からの移住者に対する就業を支援しました。また、移住情報発信事業において、オンラインによる移住セミナー等のイベントに参加しました。移住に関する相談・情報提供件数は、30件の目標件数に対し、実績が7件であり新型コロナウイルス感染症の影響が大きく目標を達成できませんでしたので、周知方法を見直し、目標達成に向けて取り組みます。

『令和3年度黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略主要事業・関連事業のまとめ』

政策分野3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望づくり

政策分野3では、令和3年度に38事業を実施し、A評価が27事業、B評価が10事業、C評価が1事業となりました。

子育て支援の面では、黒石市子ども・子育て支援事業計画に基づき、子どもが心身ともに健やかに育ち、子どもを産み育てる市民が喜びを感じることができる生活環境の実現に向け、教育・保育の確保、妊産婦・乳幼児・児童の健康確保、要保護児童への対応を基本目標とした多面的な子育て支援対策を総合的に推進しました。

具体的には、子ども医療費給付事業において、中学校修了前児童の医療費無償化に取り組んだほか、子育てサポート事業では、育児用品を購入する際に利用できる「子育て応援利用券」の交付による子育て世代の負担軽減により、児童の保健及び出生育児環境の向上を図りました。相談・指導・支援、訪問事業では、妊娠・出産への不安や子育てに悩む母親とその家族の様々な相談に応じ、安心して妊娠・出産・子育てができるよう妊娠期からの継続した支援に取り組むとともに、「子育て支援アプリ」を活用した情報発信などに取り組みました。妊娠期からの継続した支援を実施した人の割合は、100%の目標値に対し、実績値が96.6%であり目標を達成できなかったことから、連絡が取れない妊婦に対する支援方法を検討します。

学校教育の面では、市立小・中学校の適正配置による小学校4校、中学校2校の体制で、将来の本市を担う人材の育成に向け「個を生かし生きる力と夢をはぐくむ学校教育」のスローガンのもと、それを支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視した、特色ある教育活動を推進しました。

具体的には、算数・数学「UPる」先生事業において、市内各小・中学校に9人の算数・数学の指導員を配置し、チームティーチングや個別指導により児童生徒一人一人に対してきめ細かな指導を行うなど教育環境の充実を図りました。また、やる気「UPる」塾事業において、中学生を対象に「UPる」先生や弘前大学の学生が勉強の仕方を生徒に伝え、疑問点を解決する手助けをすることで、学習習慣や学力の定着につながりました。

社会教育の面では、生涯にわたり健康で明るく活みなぎる地域社会の実現に向け、学校教育と連携を図るとともに、市民同士のコミュニケーションを深め、誇りを持ち、家庭や地域での学びを活かした、人と人とのつながりと発信していける人づくりを大切にする社会教育の推進に努めました。

具体的には、子ども宿泊体験学習会を5地区の公民館・地区センターにおいて実施し、集団生活の中から協調性、自主自立性及び社会性を養い、地域で子どもを育む機運を高めることができました。また、銀河宇宙探検隊では、市内の小中学生17人が参加し、自然環境体験学習（天文教室）を開催することで自然に対する興味や関心を高め、自らの将来に夢や希望を持つ想像力豊かな心の育成を図りました。

政策分野4 健康都市宣言に基づく健康づくりと「黒石力」(=コミュニティカ)を活かした地域づくり

政策分野4では、令和3年度に29事業を実施し、A評価が13事業、B評価が14事業、C評価が2事業となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となった事業は、市民運動会事業及び各種スポーツ教室の2事業でした。

健康づくりの面では、市民がいきいきと暮らすために、各健(検)診の受診率向上など、地域ぐるみで健康づくりに取り組み、疾病予防と健康増進を目指した施策を展開しました。

具体的には、保健協力員の協力を得ながら地域ぐるみで健康づくりに取り組み、疾病予防と健康増進を目指すため、各健(検)診事業や保健指導、健康相談等を実施したほか、黒石市健康マイレージ事業を実施し、がん検診受診率の向上に取り組みました。受診率については、目標値を上回った項目があったものの、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えなどにより目標値を達成できていない項目もあったため、引き続き感染症対策を講じながら受診環境の整備に努め、受診率向上に取り組みます。

スポーツの面では、人口減少社会においてスポーツ人口は減少傾向にありますが、スポーツを積極的に取り入れ、喜びと感動に満ちたスポーツの振興に努めました。

具体的には、市民に対するスポーツの実技指導等その他スポーツに関する指導助言を行う「黒石市スポーツ推進委員」の委嘱を行いました。これにより、本市の1市民1スポーツの普及・推進が期待できます。また、学校施設開放事業においては、市民の体育活動普及振興のため市内4小学校及び1中学校の学校施設を開放し、スポーツに対する理解を深め、心身の健全な発達を図りました。学校施設開放事業の延べ利用者数は、35,000人の目標人数に対し、実績が20,166人で新型コロナウイルス感染症の影響が大きく目標に届きませんでした。引き続き学校施設を有効利用しスポーツの推進を図ります。

協働体制の確立については、市・消防署・各地区協議会・市民・市外在住の本市出身者等が、それぞれの役割分担を明確にし、ともに協力し合いながら、これまで培われてきた地域コミュニティを維持し、地域の問題を地域で考え、行動し、問題を解決できるような住民主体のまちづくりを支援しました。

具体的には、地域介護予防活動支援事業において、住民主体で介護予防等への取組を行う団体の発掘と、それらの団体に対し支援を行いました。また、自主防災組織の設立と支援に関する事業において、災害に強いまちづくりと組織率100%を目指し、自主防災組織の設立及び活動に対し補助金を交付することで支援しました。自主防災組織の活動カバー率は、100%を目標値にしていたのですが、実績が97.0%であり目標を達成できませんでしたので、未設立地区に対し積極的な働きかけを行っていきます。循環型社会の確立のため、ごみ減量化事業に向けたリサイクル率の向上及び生ごみ処理コミュニティビジネスモデル事業において、地区協議会が実施する生ごみ処理コミュニティビジネスモデル事業に支援を行い、持続可能な自主自立の地域づくりを進めました。